

帯広圏のあらまし(資料の説明)

資 料 5

p2 十勝と帯広圏1市3町の位置・サイズ

- ・十勝総合振興局管内(19市町村＝「十勝」)の面積は岐阜県(都道府県7位)相当。北海道全体の8分の1程度
農業産出額は、都道府県別で全国4位の宮崎県に匹敵。北海道全体の4分の1以上を占める。
- ・帯広市と隣接する3町(音更町、芽室町、幕別町)は、十勝の中央に位置。
- ・1市3町(＝「帯広圏」)の面積は、東京都とほぼ同じで、十勝の20%。一方で、人口は、十勝の75%が帯広圏に集中。
- ・1市3町が接しあう地帯(図の黄色点線囲み部)に、市街地(後述のいわゆる「帯広都市圏」)が形成されている。
- ・北海道の他都市圏と比べると、人口は中程度だが、2010年から2020年の人口減少率は、帯広圏が他の圏域と比べて低い。また、地価も上昇しており、帯広市を中心とした底堅さを反映。道内では札幌に次いで活力ある地域。

p3 「帯広都市圏」

- ・帯広市の市街地を中心に、隣接する3町の市街地が形成されており、いわゆる「帯広都市圏」を形成。
なお、1市3町の人口のうち90%が、この市街地(都市計画上の「市街化区域」)内に集中。
- ・帯広市街地中心部から各町市街地、役場まで、概ね15km、車で25分以内で往来が可能。コンパクトにまとまっている。
- ・また、とちち帯広空港にも車で40分程度でアクセスできる。

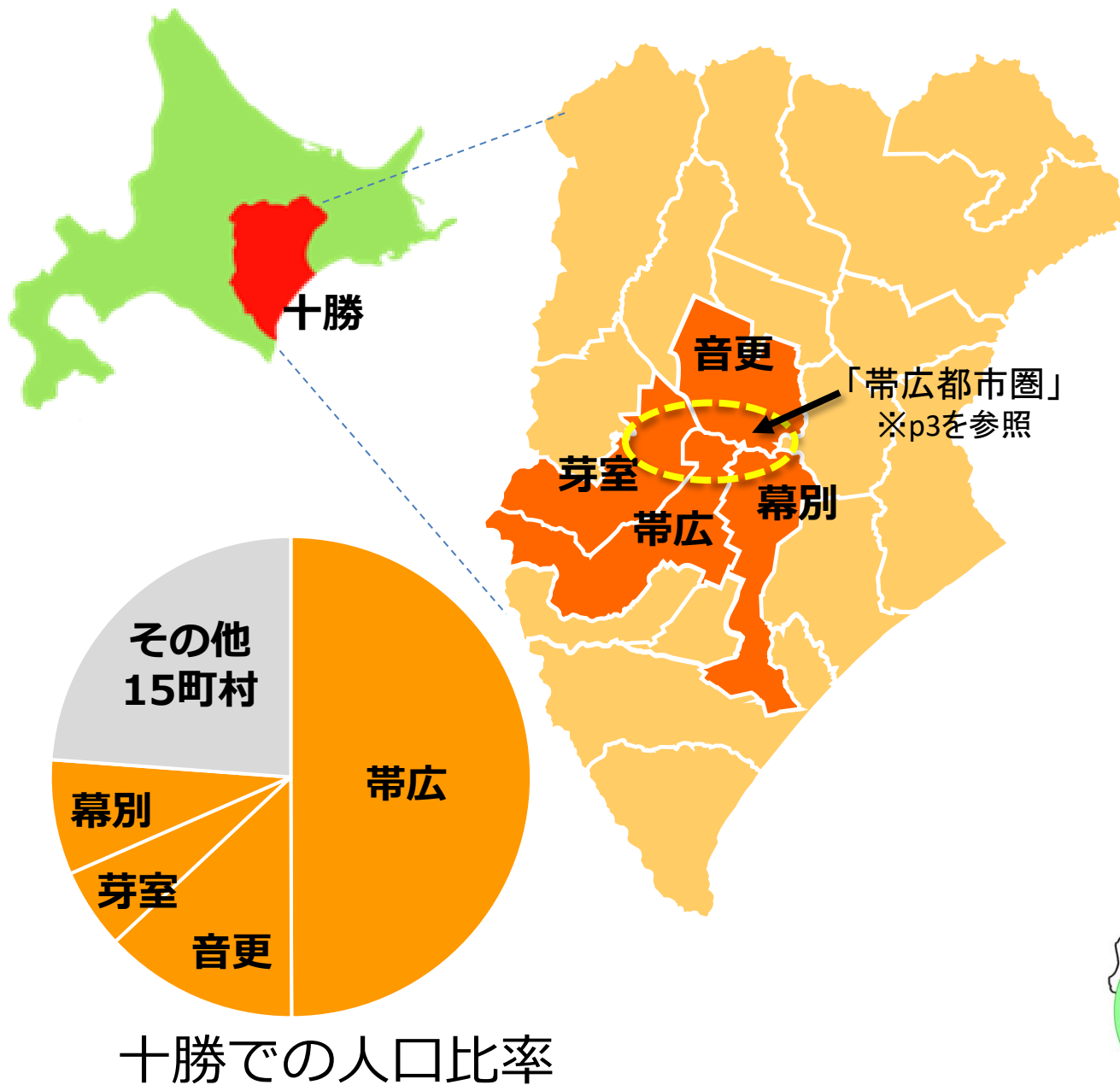
p4 ひとつの生活圏

- ・国勢調査のデータをもとに、帯広圏各市町間の常住地と従業・通学地との間の人口移動をみると、
各市町へ流入する(各市町から流出する)人口の7～9割が圏域内。
市街地が隣接し、多くの住民が仕事や通学等で圏域内を行き交っている様子がわかる。

p5-6 十勝の中の帯広圏

- ・各種データから、帯広市または帯広圏1市3町には、十勝における産業、医療・福祉、教育、暮らしなど
各分野の機能等が集積し、大きな地位を占めていることがうかがえる。

十勝と帯広圏1市3町

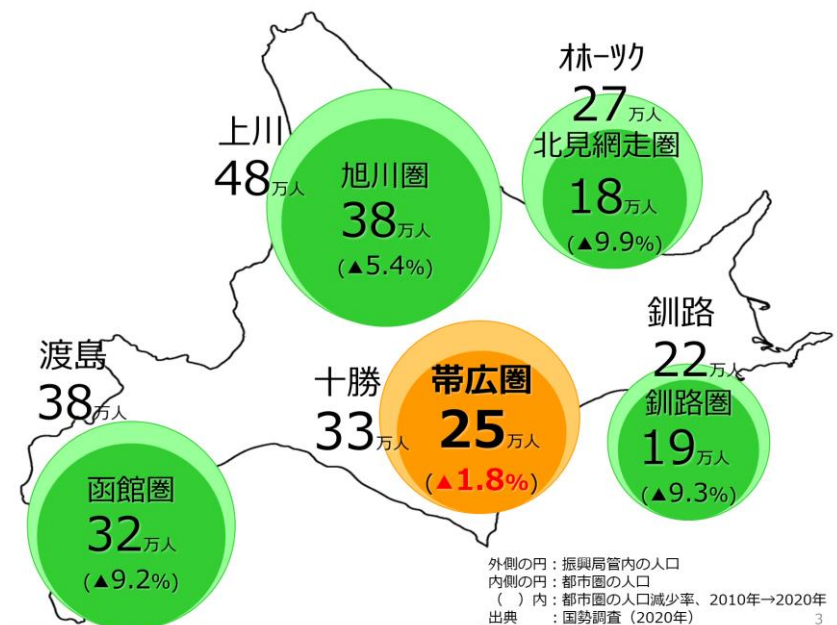


《十勝》

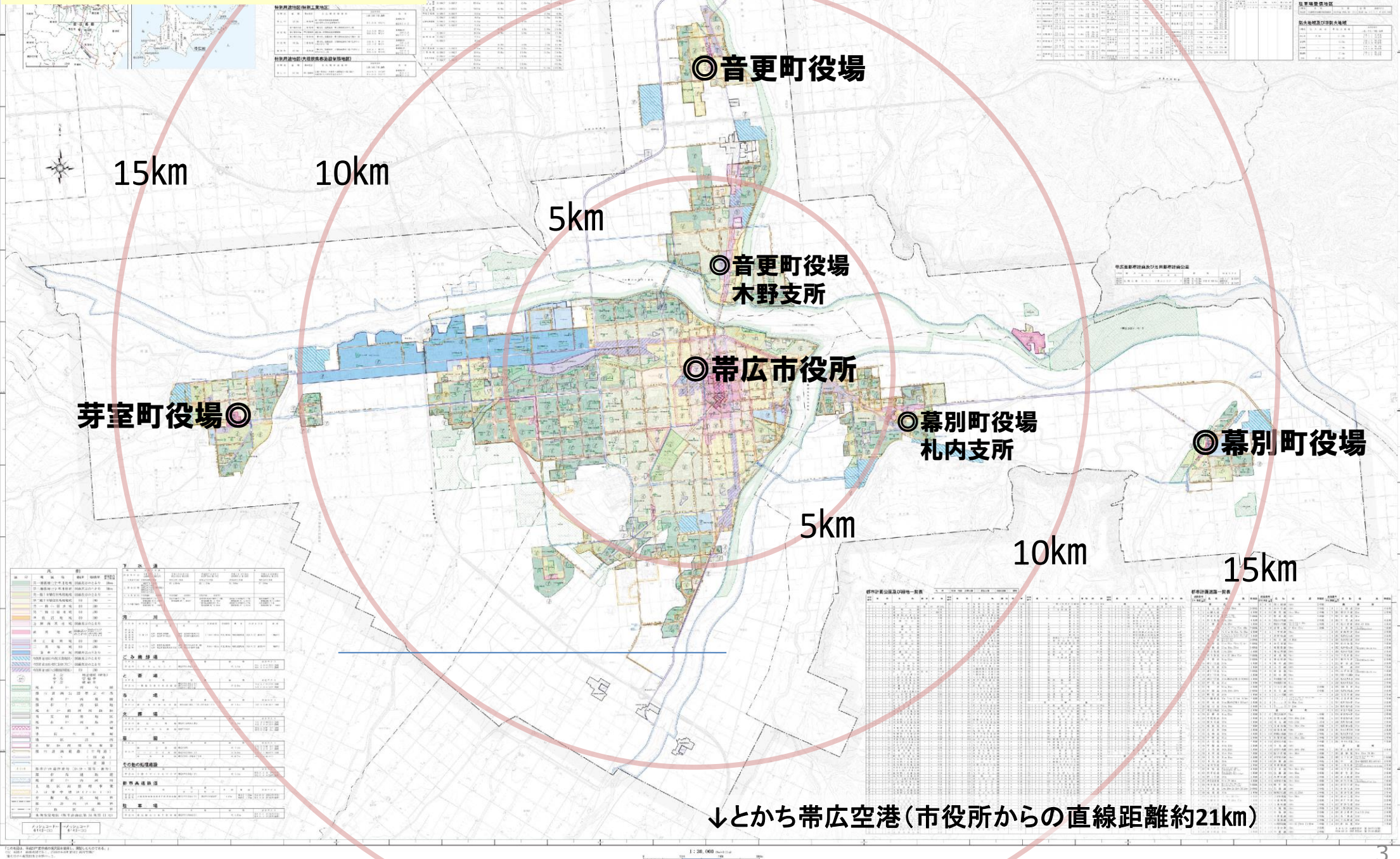
- ・面積は岐阜県相当（都道府県7位）
- ・農業生産額は宮崎県相当（都道府県別4位）（3,494億円）（2021年）

《帯広圏》

- ・面積は東京都とほぼ同じ
- ・十勝の人口・経済・都市的機能の集積地
- ・他の圏域よりも人口減少率小

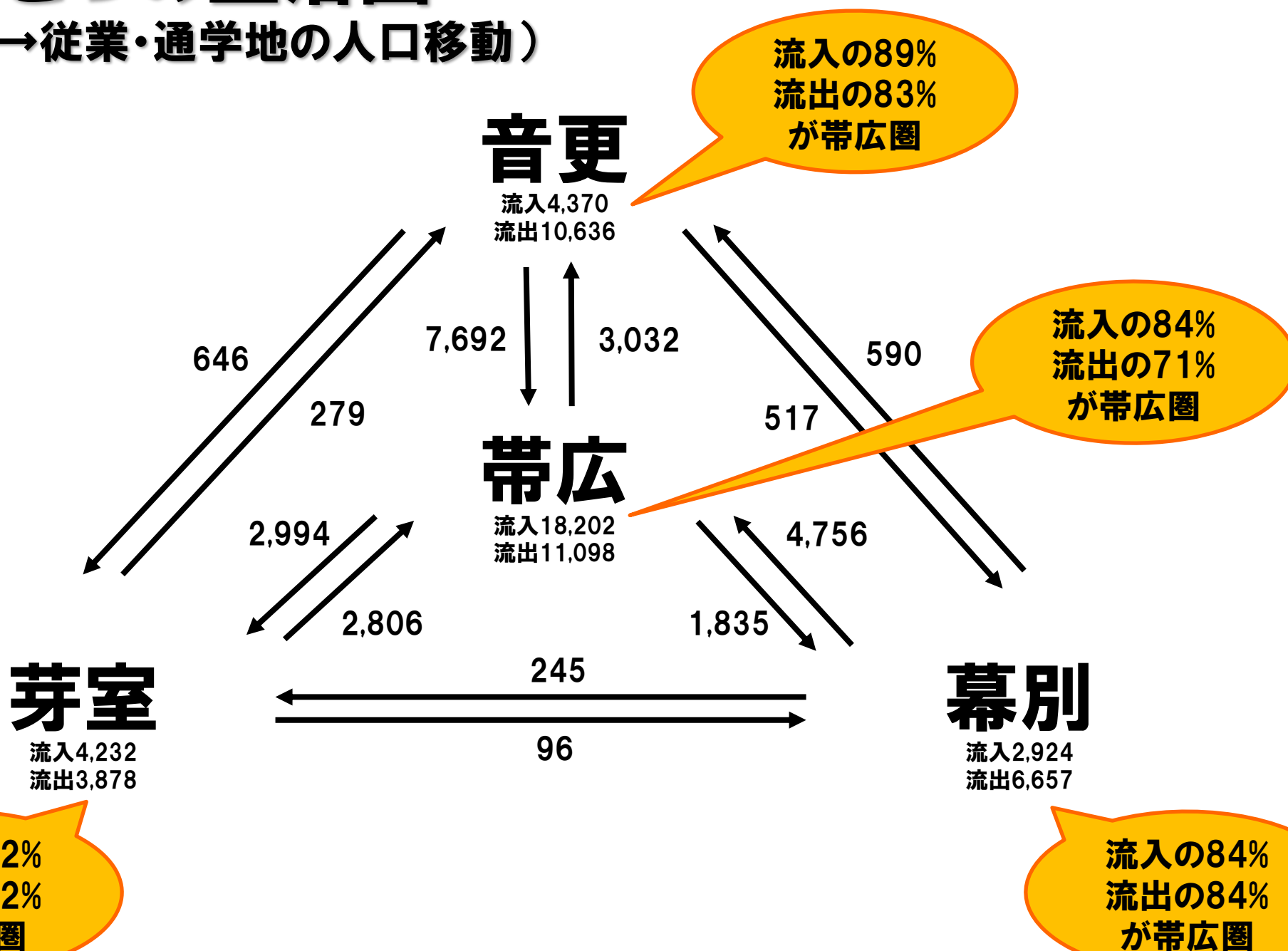


帯広都市圏



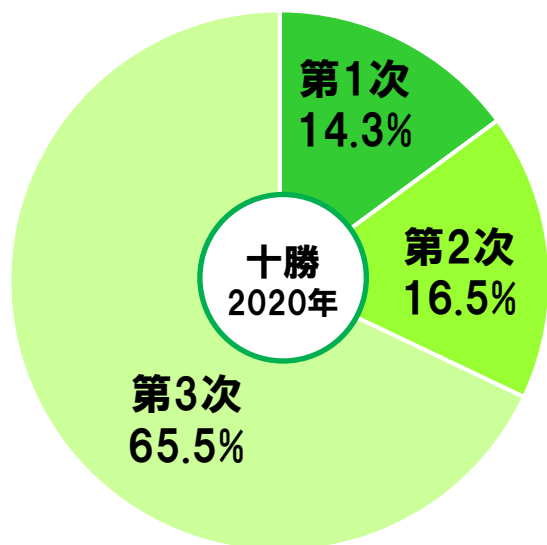
ひとつの生活圏

(常住地→従業・通学地の人口移動)

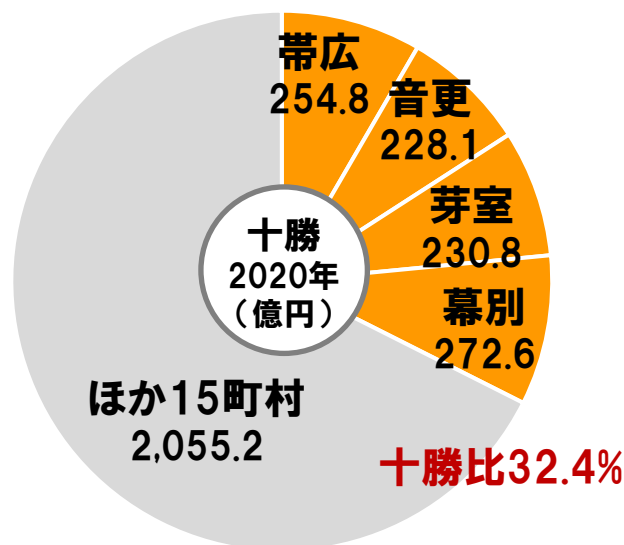


十勝の中の帯広圏

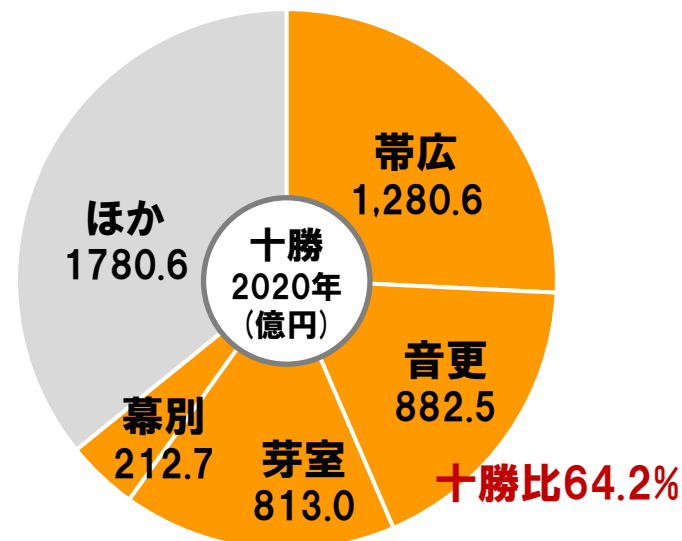
*出典： A＝国勢調査(2020年)、B＝農林水産省「市町村別農業産出額」(2020年)、
C＝経済センサス活動調査(2015年、2020年)、D＝北海道(2019年度)



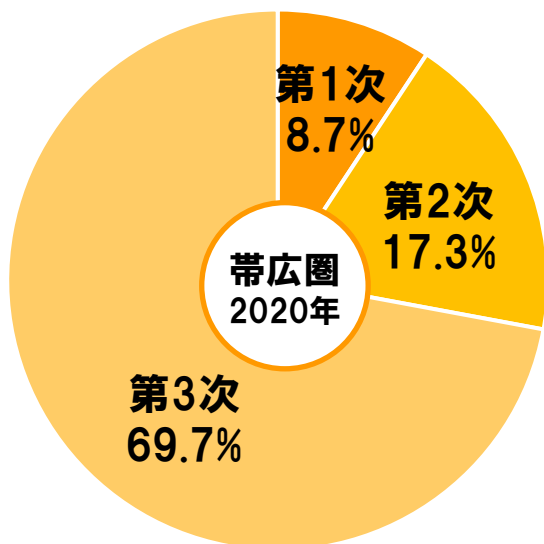
産業別就業者数 *A



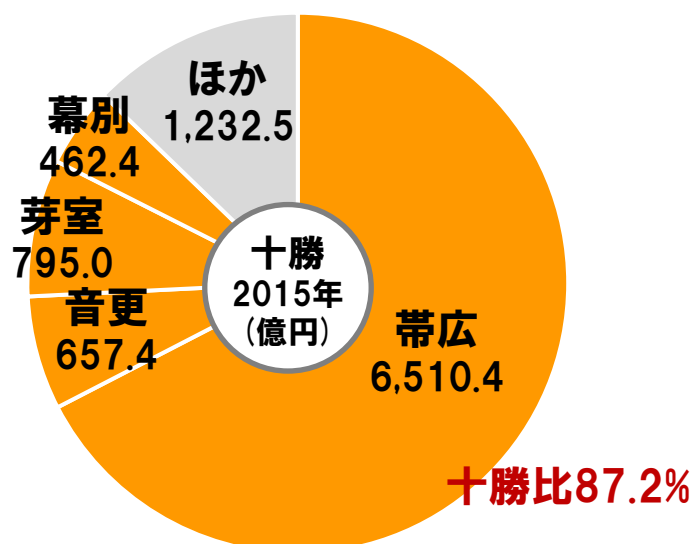
農業産出額 *B



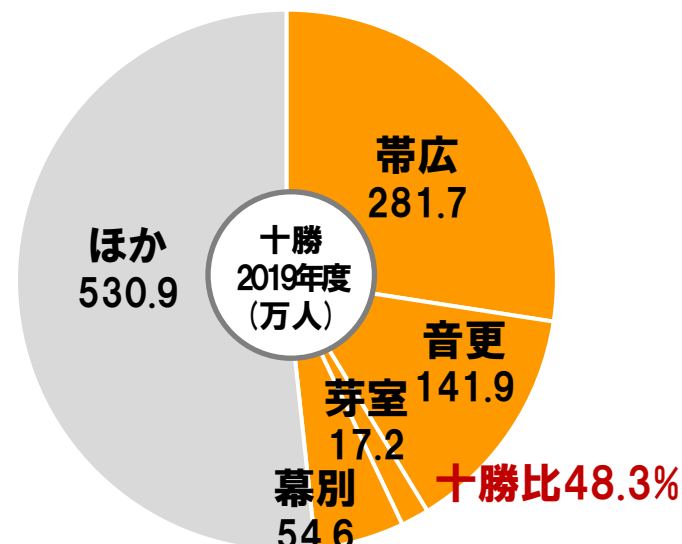
製造品出荷額 *C



産業別就業者数 *A



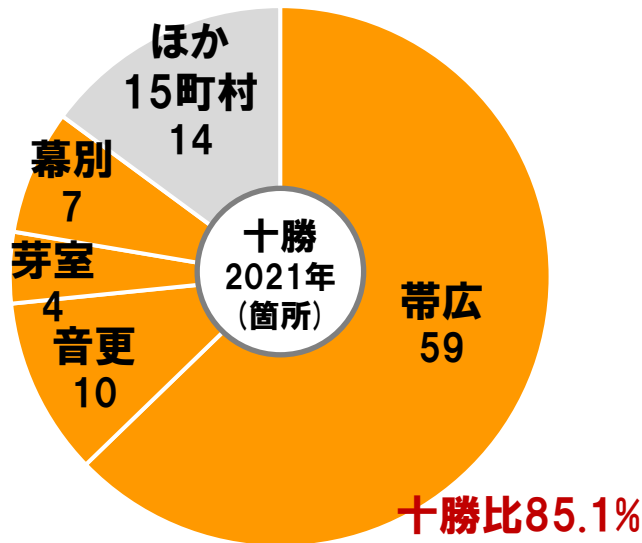
年間商品販売額 *C



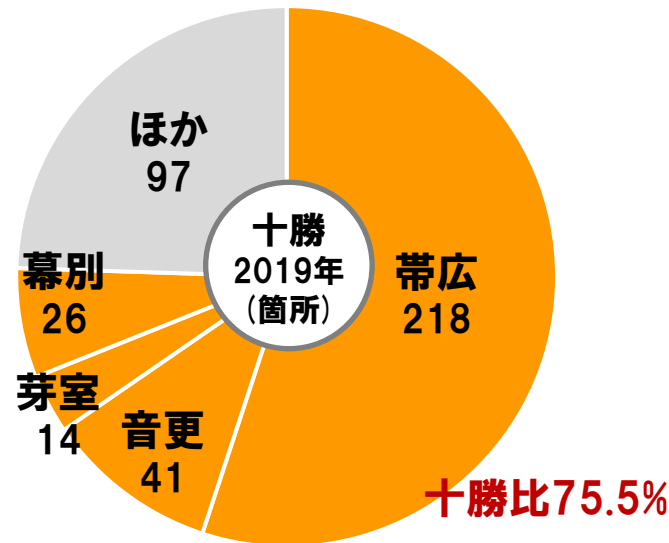
観光入込客数 *D

十勝の中の帯広圏

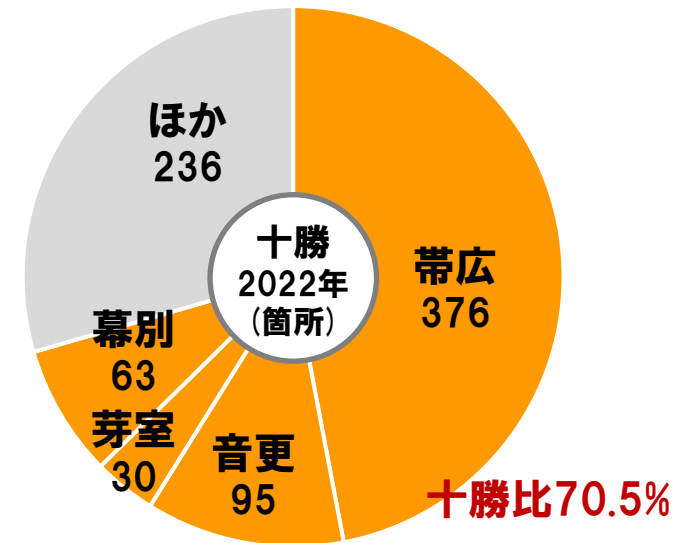
*出典: E=北海道調べ(2021年)、F=北海道「保健統計年報」(2019年)、
G=北海道調べ(2022年)、H=北海道「学校基本統計」(2021年)ほか、
I=北海道「北海道の都市計画」(2021年)、
J=総務省「市町村公共施設状況調査」(2019年)



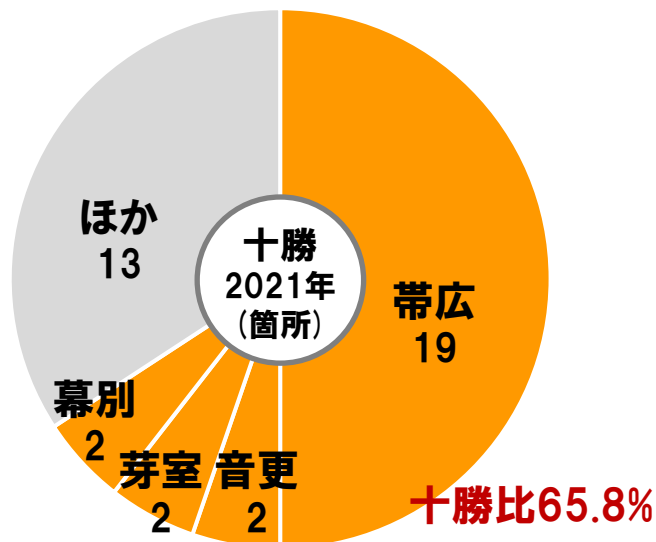
大規模小売店舗 *E



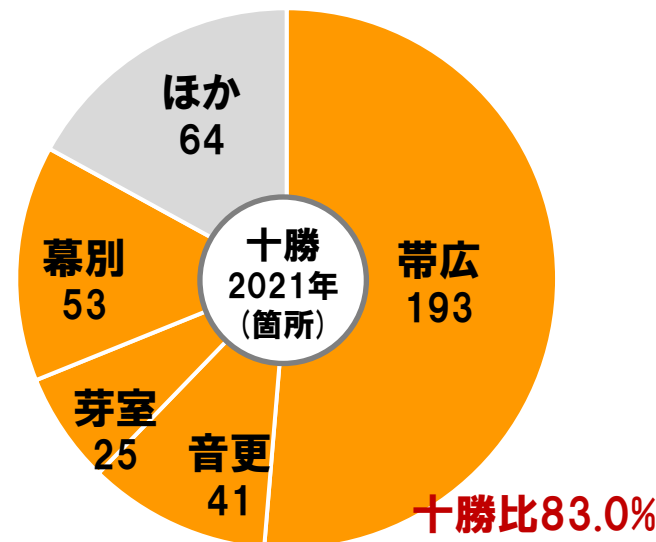
病院・診療所 *F



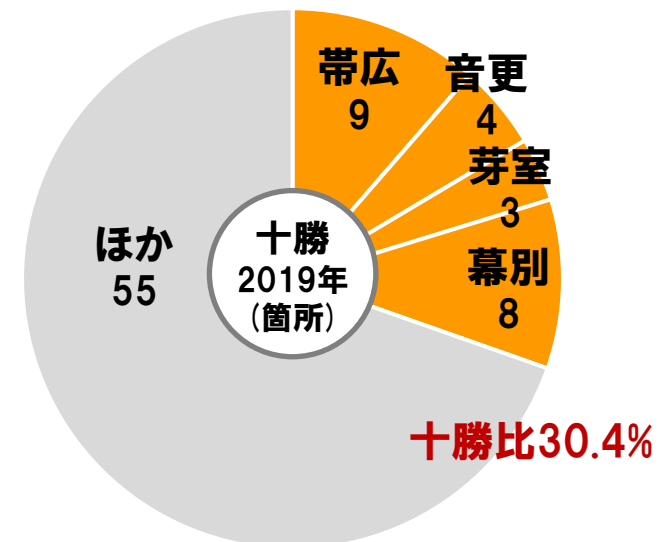
社会福祉施設 *G



高校・大学等 *H



公園・緑地 *I



スポーツ施設 *J

(体育館、陸上競技場、野球場、プール)